

止めよう! 《再処理》

2005(平成17)年
6月19日発行

ミニコミ通信・連絡場所
電話・ファックス
019-623-1636

英セラフィールド再処理工場から 膨大な量の放射性物質漏れる

ソープ(酸化燃料再生工場)工場閉鎖へ
環境特派員 ポール・ブラウン =英 ガーデアン紙報道=

は、およそ二十トンもの
ウラニウムとプルトニウ
ム燃料を含んでおり、破



非常に危険な混合液

セラフィールドにある
高濃度の放射性核燃料再
処理工場で、濃縮された
硝酸に溶解した状態の高
放射性核燃料が、オリ
ンピックプールの半分もの
量が漏れ出すという事
故が起き、閉鎖に追い込
まれている。

オリンピックプール 半分の量

英国セラフィールドのソープ核廃棄物再処
理施設で大きな放射性廃棄物漏出事故が発生
した。ガーデアン紙の五月十日記事が、イン
ターネットで報道されている。
日本でも六月八日、六カ所使用済み燃料プ
ールで貫通孔からの漏えい事故が確認され
た。

損じたパイプから巨大な
ステンレス容器(入れ物)
に漏れ出しているため
に、非常に放射性レベル
の汚染度が高く、中に入
ることが出来ない状態に
なっている。

プールに閉じこめられた放射 能液、修復の方法未定

漏れ出た液体を回収
し、パイプを修復するた
めには、数ヶ月が必要と
みられ、二十一億ポンド
もするプラントの修復に
は、特殊なロボットによ
る高度な作業が必要とさ
れる。

放射性物質の漏洩は、
一般市民にとってそれほ
ど危険ではないが(引用
者注「プールに閉じこ
められている限り」の意
味)、納税者としては財政
面で大きな痛手になるは
ずである。というのも、

一日に一〇〇万ポンド以
上と計算されるソープ工
場(酸化燃料再生処理工
場、略称THORP)の
収入で、この余分な各施
設の事故処理費用をまか
ななければならぬから
である。工場の閉鎖は
原子力産業にとって最悪
の事態なのである。

オペレータと 遠隔カメラが発見

工場の異常は四月一
九日、工場のオペレータ
が硝酸の中に溶けた使用
済み燃料の全量を計算出
来なかった事によりはじ
めて気づいた。それは、
プラントの各施設を移動
しながら、数カ所の遠心
分離器において、ウラニ
ウム、プルトニウム、
そして廃棄物とに計量さ
れ、区分されているもの
と想定されていた。工場
内の監視カメラが漏れを
発見した。

大半の物質がウラニウ
ムであるにもかかわらず
ず、燃料はおよそ二〇〇
kgのプルトニウムを含
んでおり、この量は二十
個の核兵器を製造出来る
量に匹敵する。またこの
量は核物質が悪人の手に

落ちることがないように
防衛するための国際的な
保護規定(安全規定)に
従って回収・回復されな
ければならないものであ
る。

「Alternative Media」
青山貞一氏ブログより。
池田こみち氏(環境総合
研究所副所長) 斉藤真実
氏(環境総合研究所研究
員) 暫定翻訳) 主な
部分を掲載しました。



六カ所再処理工場 貯蔵プール

またまた漏水発生

日本原燃の公表による
と六カ所再処理工場の燃
料貯蔵プールで六月八日
漏えいが確認された。十四
日、同社は「真空発泡検
査によって、西南床コーナ
ー付近で貫通孔が一カ
所発見された」と発表した。
この事故によって各地原燃
からの使用済み核燃料の
受け入れは当分見合わせ
るとした。

【原子力資料情報室(CNIC)】

